2024年度　町田市立南第一小学校　学校経営計画・学校評価報告書（自己評価・学校関係者評価）

令和6年3月31日

学校教育目標	学校経営の重点
○深く考える子ども（自分で学ぶ　みんなで学ぶ）　○粘り強い子ども（なりたい自分をめざし　やり抜く） ○助け合う子ども（違いを理解し　力を合わせる）　○元気な子ども（望ましい運動習慣　生活習慣）	○学校地域の協働的な活動を推進し、全教育活動でのキャリア教育の充実を図ることで、児童の健やかな心と主体的に学びに向かう力を育成する。
○目指す学校像・・・・・・・①児童が将来への希望を抱いて、主体性と自律性をはぐくむ学校　②多様な人との協働的な関わりを通して自己の価値を見出し、成長し合える学校 ○目指す児童・生徒像・・①自己肯定感を高め、なりたい自分に向かって目標をもち、学びに向かう子供　②互いを認め合い、学び合う子供 ○目指す教師像・・・・・・①児童への愛情と、職務へのやりがいをもって自分を向上させながら指導ができる教師　②日常的なOJTを活用し、教育集団として学び合う教師	重点目標の成果と課題 （成果）○地域学校協働本部の効果的な運用により、全学年で学習に有用な地域人材の活用を図り、キャリア教育で育成すべき4つの能力を伸長することができた。 ○家庭・地域・同窓会と連携し、児童が「未来につなぐ　新たな伝統」のスローガンのもと、150周年を祝い、自分たちの学校を誇りに思う心情を醸成できた。 （課題）自ら学び続ける力の育成を目指し、キャリア教育4つの能力を礎としながら基礎学力の定着を徹底する。

領域	教育プランに基づく経営目標	中期・短期経営目標	具体的方策	取組指標	平均	評価	成果指標	○%	評価	分析コメント	改善策	学校関係者評価記入欄	評価
社会に開かれた教育課程の実現	目指す学校及び子どもの姿を家庭や地域社会と共有・連携した教育課程を実施する。	教育活動の発信や授業等の公開を積極的に行い、教育活動への理解を図る。	学校だより、学年だより、専科だよりやホームページで、教育活動のねらいや状況を具体的に発信する。	4 週4回以上の更新 3 週3回以上の更新 2 週2回以上の更新 1 週2回未満の更新	4	A	A 学校評価アンケート③「情報発信」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート③「情報発信」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート③「情報発信」肯定的評価 55%以上 D 学校評価アンケート③「情報発信」肯定的評価 55%未満	93	A	○情報の精選及び異学年間の情報共有を目的とした学校だよりと学年だよりの一元化を図った。配布物が精選され全校の様子が分かるという評価を得て、昨年度比＋5Pとなった。 ○「あゆみ」の所見に替えて、個人面談を増やした。また学校公開後に保護者会を設定した。これらの取組により、保護者と直接的にコミュニケーションを図る機会を増やすことができ、高評価につながった。 ○昨年度の実績を生した地域人材活用に教員がその学習効果を実感し、VCと連携して新たな人材発掘につながり昨年度比＋2Pとなった。	○保護者にとって分かりやすい情報発信を目指し、学校だよりの内容項目の見直しを行う。また、各教員の指導方針や児童の様子の理解を図るために、学級通信や専科だよりの作成・発信を行う。 ○地域学校協働本部や学校運営協議会の活動を推進し、地域人材や地域教材の活用だけではなく、学校から地域のためになる取組を児童主体に創造し、発信していくことで、相互連携を推進する。	○日頃から分かりやすい、理解しやすい情報開示や説明がされており、学校の前向きな姿勢が感じられる。 ○教職員の努力の姿が保護者の評価につながっている。 ○多くの地域の方々の協力で、貴重な体験学習ができていた。 ○地域で顔を合わす人と学校でも会った、という声を子供から聞く。地域とのつながりを感じ安心である。 ○全ての児童が習い事等の体験ができるわけではないため、学校での多様な学習活動は大切である。他の学年の活動動画等の発信があってもよい。	A
		地域学校協働本部を活用した、地域教材や地域人材等を活用した体験的学習を実施する。	学校公開、学校行事での直接公開とともに、保護者会や個人面談でより具体的な発信を行う。	4 90%以上のクラスで意識して取組を実施 3 80%以上のクラスで意識して取組を実施 2 70%以上のクラスで意識して取組を実施 1 意識した取組を実施したクラスが70%未満	4	A	A 学校評価アンケート④「教育活動公開」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート④「教育活動公開」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート④「教育活動公開」肯定的評価 55%以上 D 学校評価アンケート④「教育活動公開」肯定的評価 55%未満	94	A				
			地域学校協働本部と連携して、地域人材、地域教材を活用した学習を全学年で実施する。	4 計画の90%以上の指導場面で実施 3 計画の80%以上の指導場面で実施 2 計画の70%以上の指導場面で実施 1 計画の70%未満の指導場面で実施	3.6	A	A 学校評価アンケート①「地域連携教育活動」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート①「地域連携教育活動」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート①「地域連携教育活動」肯定的評価 55%以上 D 学校評価アンケート①「地域連携教育活動」肯定的評価 55%未満	83	A				
			教職員参加型の学校運営協議会を実施し、本校の教育活動の周知および情報共有を図る。	4 必要情報の90%以上を周知・意見交換 3 必要情報の80%以上を周知・意見交換 2 必要情報の70%以上を周知・意見交換 1 必要情報の70%未満を周知・意見交換	4	A	A 学校評価アンケート②「地域との一体化」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート②「地域との一体化」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート②「地域との一体化」肯定的評価 55%以上 D 学校評価アンケート②「地域との一体化」肯定的評価 55%未満	89	A				
確かな学力の育成	授業改善を進め、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得と思考力、判断力、表現力等の育成とともに、主体的・対話的で深い学びを実現する。	「できる・分かる・参加する」授業に向け、授業の4つの重点に基づくユニバーサルデザイン化を推進する。	授業改善シートを活用し、時間の構造化、視覚化を用いた授業改善を図る。	4 90%以上の授業で実施 3 80%以上の授業で実施 2 70%以上の授業で実施 1 70%未満の授業で実施	3.1	B	A 児童アンケート①「分かりやすい授業」と回答 B 児童アンケート①「分かりやすい授業」と回答 C 児童アンケート①「分かりやすい授業」と回答 D 児童アンケート①「分かりやすい授業」との回答が55%未満	94	A	○自己申告時に授業改善シートによる自己点検及び具体的改善を検討する機会を設け、UD授業が定着してきた。児童アンケート昨年度比＋8Pにつながった。 ○朝学習、家庭学習、全校テスト対策等の反復学習や、補習指導等を行ったが、下位層児童に課題が残る。昨年度比−5Pとなった。 ○学習のねらいや次につながる振り返りをキャリア教育の視点で取り組む授業を行った結果、90%の児童が自己認知を意識して学習に向かうことができた。 ○対話的な活動を取り入れた授業は全教員が行ったがICTを活用した協働的な授業はできていないため、評価値は横ばい。	○児童が自ら学びに向かう力を育成するために、基礎学力の定着を目指した「南一学習スタンダード」を確立し、学校と家庭が連携を一層強化する。 ○町田市授業改革推進に向けた研修内容の実践に努め、児童一人一人が自分の学習スタイルを理解し、自らの学習目標達成のためにどのように学ぶのかを考え、選択する授業を推進する。 ○学びを深め広げる協働学習の実現に向けた効果的なICT活用の具体的な実践事例について、ICT推進教員を中心に校内研修を行い、授業改革を進める。	○教員は、それぞれの児童に応じた指導に努力しているが、一定の理解度に達していない児童がいる。 ○低学年の補習教室は効果的であった。他の学年でも実施できるとよい。 ○学校は、楽しく学べる環境を日々創意工夫している。アウトプットすることで再確認しながら学習を深められるとよい。 ○教員・児童が「夢4」のビジョンを共通認識しているので、保護者も同じ熱量で連携できるとよい。	B
				4 90%以上の授業で実施 3 80%以上の授業で意識して指導 2 70%以上の授業で意識して指導 1 70%未満の授業で意識し指導	3.1	B	A 学校評価アンケート⑦「基礎基本の定着」肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート⑦「基礎基本の定着」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート⑦「基礎基本の定着」肯定的評価 55%以上 D 学校評価アンケート⑦「基礎基本の定着」肯定的評価55%未満	83	A				
			児童の学習状況を把握し、個に応じた指導を徹底することで、基礎基本の定着を図る。										
		学習への興味・関心を高め、主体的・対話的に学ぶとともに、次の学び向かう子供を育成する。	キャリア教育4つの能力を活用し、児童が学びへの意欲と学びの価値を見出せる授業を行う。	4 90%以上の授業で実施 3 80%以上の授業で実施 2 70%以上の授業で実施 1 70%未満の授業で実施	4	A	A 児童アンケート①「夢4を発揮して学習した」と回答 B 児童アンケート①「夢4を発揮して学習した」と回答 C 児童アンケート①「夢4を発揮して学習した」と回答 D 児童アンケート①「夢4を発揮して学習した」との回答が55%未満	90	A	○学習のねらいや次につながる振り返りをキャリア教育の視点で取り組む授業を行った結果、90%の児童が自己認知を意識して学習に向かうことができた。 ○対話的な活動を取り入れた授業は全教員が行ったがICTを活用した協働的な授業はできていないため、評価値は横ばい。				
			ICT機器等を活用して、学びを深め、広げる協働的な授業を行う。	4 90%以上の単元で実施 3 80%以上の単元で実施 2 70%以上の単元で実施 1 70%未満の単元で実施	2.9	C	A 児童アンケート①「学びを深め広げる回答 B 児童アンケート①「学びを深め広げる回答 C 児童アンケート①「学びを深め広げる回答 D 児童アンケート①「学びを深め広げる回答が55%未満	73	B				
豊かな心の涵養	多様性を尊重し、自分と共に他者を大切にする意識・意欲・態度を育てる。	自己理解と他者理解を通して、児童の自己有用感を高める。	縦割り班活動等の異学年交流、委員会、クラブ活動、学校行事等で児童による自治的活動を展開する。	4 年間活動計画の90%以上で実施 3 年間活動計画の80%以上で実施 2 年間活動計画の70%以上で実施 1 年間活動計画の70%未満で実施	3.7	A	A 児童アンケート①「学びを深め広げる回答 B 児童アンケート①「学びを深め広げる回答 C 児童アンケート①「学びを深め広げる回答 D 児童アンケート①「学びを深め広げる回答が55%未満	98	A	○時程を工夫し、縦割班の活動時間を増やした。児童の思いを生かした委員会・クラブ作りを行った結果、児童の98%が肯定的回答をしており、昨年度比＋3Pとなった。 ○研究に目標をもち、そのためにどうするのかを常に考えさせ、事後の振り返りを徹底した結果、児童の肯定的評価は90%強。 ○道徳授業や全教育活動において、道徳的価値について考えさせてきたが、実践力の育成に課題が残り、教員、保護者ともに白評価となった。 ○人権的配慮や人権感覚を大切にした教育活動推進の様子の情報発信不足、家庭との連携不足が、B評価につながっている。	○全教育活動において、キャリア教育を礎とすることで、児童の自己理解の深化を図り、互いを尊重し合う心を培う。 ○特活での異学年活動や学習活動での異学年交流、異校種間交流等を通して、多様な人との関りや多様な価値観に触れ、豊かな心の醸成を図る。 ○異学年との交流をはじめ、地域人材・外部人材等多様な人との関わりを通して、様々な人の価値観や生き方について考える機会とし、人権感覚を伸長する。	○多様性や他者の理解は学校という集団生活だからこそ学べる。学校行事は児童が成長する良い機会であるため、限られた時間を工夫して継続してほしい。 ○困っている人を助ける子供の姿をよく見かける。他者を思いやる心が育っていると感じる。 ○自信がなかったり、失敗を恐れてしまう児童がまだまだいる。自己有用感を高めるキャリア教育は大切である。 ○染髪やピアス、服装等、保護者と学校とが意見交換する場を設定してみるとよい	A
				4 全ての道徳授業で実施 3 90%以上の道徳授業で実施 2 80%以上の道徳授業で実施 1 80%未満の道徳授業で実施	3.5	A	A 学校評価アンケート④「豊かな心の涵養」で80%以上が肯定的な回答 B 学校評価アンケート④「豊かな心の涵養」で70%以上が肯定的な回答 C 学校評価アンケート④「豊かな心の涵養」で55%以上が肯定的な回答 D 学校評価アンケート④「豊かな心の涵養」での肯定的な回答が55%未満	90	A				
		自分と他者双方の生命を大切する心、道徳性、規範意識を育む。	道徳の授業を通して、道徳的価値に対して自分を見つめ直し、道徳的実践力を育てる。		3.2	B		78	B				
			全教育活動において人権感覚の育成を図りとともに、いじめをしない、させない、許さない、見逃さない生活指導を徹底する。	4 人権教育・いじめ防止教育を月1回以上指導 3 人権教育・いじめ防止教育を学期に2回に以上指導 2 人権教育・いじめ防止教育を学期に1回以上指導 1 人権教育・いじめ防止教育を年2回以上指導	4	A	A 学校評価アンケート⑤「豊かなの涵養」で80%以上が肯定的な回答 B 学校評価アンケート⑤「豊かなの涵養」で70%以上が肯定的な回答 C 学校評価アンケート⑤「豊かなの涵養」で55%以上が肯定的な回答 D 学校評価アンケート⑤「豊かなの涵養」で肯定的な回答が55%未満	73	B				
健やかな体の育成	正しい生活習慣を身に付けさせ、丈夫な体とたくましい心を育てるとともに、自助・共助・公助の力を身に付ける安全指導・安全教育を充実する.	日常的な運動及び健康教育・食育の充実を図り、体力の向上を図る。	毎学期家庭と連携した「元気もりもりウィーク」を実施し、生活リズムの定着や健康教育・食育を推進する。	4 計画の90%以上の指導場面で実施 3 計画の80%以上の指導場面で実施 2 計画の70%以上の指導場面で実施 1 計画の70%未満の指導場面で実施	3.1	B	A 学校評価アンケート⑥「食習慣・生活習慣」肯定的評価 80%未満 B 学校評価アンケート⑥「食習慣・生活習慣」肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート⑥「食習慣・生活習慣」肯定的評価 55%以上 D 学校評価アンケート⑥「食習慣・生活習慣」肯定的評価 55%未満	80	A	○健康教育強化月間中は、指導も活性化するが、継続的な指導となっていないため、教員評価はBとなっている。 ○体力向上月間は計画的に実施したが、体力向上や運動に親しむ体育授業実践に課題がある。児童の外遊び率も60%強程度となっており、教員・児童ともにB評価となっている。 ○児童への生活指導とともに家庭に情報発信することで、連携した生活指導に取り組んだ。学校評価昨年度比＋4Pにつながった。 ○児童の状況について、校内共有体制は徹底でき、組織的な対応を行ってきたが、保護者にとって相談しやすい環境づくりには課題が残った。昨年度比−6P。	○家庭と連携して、児童に望ましい運動習慣、生活習慣を身に付けさせるために、毎学期「元気もりもりウィーク」や「体力向上週間」では、児童にめざす姿を明確にさせた取組と振り返りを大切にさせるとともに、体育館による体育指導校内研修を行い、体育授業の質の向上を図る。 ○全教職員で児童理解を図る場や校内委員会を定例で確実に実施するとともに、保護者と良好なコミュニケーションを図りながら、連携できるように、細やかな情報発信を行い、保護者が相談しやすい環境を整える。	○元気もりもりウィークは、定期的に生活習慣を点検する良い機会となっている。 ○学期ごとの運動週間は、頑張ろうという気持ちが育つ良い取組である。 ○児童の体力向上に力を入れている。生活習慣は家庭による ところが大きいため、学校でできることには限りがあり難しい。 ○教職員で児童の状況を常に共有し、迅速に対応できている。多様性の時代、その子にとって何がベターかを考えて対応できるとよい。 ○SNSの問題については、保護者協力のもと現状を把握する実態調査を行ってみてはどうか。保護者自身が我が子が使う携帯等への向き合い方を考える必要がある。	A
				4 90%以上の授業で実施 3 80%以上の授業で実施 2 70%以上の授業で実施 1 70%未満の授業で実施	3.3	B	A 児童アンケート「進んで運動した」で肯定的評価 80%以上 B 児童アンケート「進んで運動した」で肯定的評価 70%以上 C 児童アンケート「進んで運動した」で肯定的評価 55%以上 D 児童アンケート「進んで運動した」で肯定的評価 55%未満	78	B				
		安全な校内環境を整え、自分の命は自分で守る安全教育の実施と危機管理体制を確立する。	年間計画に則った安全な校内生活指導や交通安全指導を行う。また、安全点検の事後処理を速やかに行う。	4 全ての指導場面で実施 3 90%以上の指導場面で実施 2 80%以上の指導場面で実施 1 80%未満の指導場面で実施	3.8	A	A 学校評価アンケート⑧「安全意識の育成」に「校内環境」で肯定的評価 80%以上 B 学校評価アンケート⑧「安全意識の育成」に「校内環境」で肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート⑧「安全意識の育成」に「校内環境」で肯定的評価 55%以上 D 学校評価アンケート⑧「安全意識の育成」に「校内環境」で肯定的評価 55%未満	83	A				
			毎週月曜日の生活指導夕会で、児童の問題行動や校内での配慮事項等の情報を共有し、組織的な指導体制で、問題の未然防止と早期解決を図る。	4 必要情報に対して実施 3 必要情報に対して実施 2 必要情報に対して実施 1 必要情報に対して実施	4	A	A 学校評価アンケート⑤「学校の相談体制」で肯定的評価 80%未満 B 学校評価アンケート⑤「学校の相談体制」で肯定的評価 70%以上 C 学校評価アンケート⑤「学校の相談体制」で肯定的評価 55%以上 D 学校評価アンケート⑤「学校の相談体制」で肯定的評価 55%未満	75	B				
その他													

成果指標平均　80%以上⇒評価A
成果指標平均　70%以上⇒評価B
成果指標平均　55%以上⇒評価C
成果指標平均　55%未満⇒評価D

取組指標の評価基準（結果数値からABCD評価へ）

取組指標平均　3．5以上	⇒	評語A
取組指標平均　3以上3．5未満	⇒	評語B
取組指標平均　2以上3未満	⇒	評語C
取組指標平均　2未満	⇒	評語D

※　学校独自に設定する場合は、枠内を修正明記してください。

成果指標評価基準

学校関係者評価の評価基準例

A⇒　取組・成果ともに十分評価できる
B⇒　取組・成果ともに評価できるが、さらに改善したい
C⇒　目標達成には至らないため、次年度の改善が必要
D⇒　重要な課題であるため、次年度、重点的に改善

※　学校からの十分な説明をもとに、学校運営協議会で成果と課題、改善点について協議する。